

2019年度企業家研究フォーラム賞選考について

企業家研究フォーラム賞審査委員会委員長

原 拓 志

著書の部

著書の部では、次の作品が受賞作となった。

沼上 幹 (一橋大学) 著

『小倉昌男―成長と進化を続けた論理的ストラテジスト―』 (日本の企業家⑬)

(PHP 研究所, 2018年3月)

選考理由: 本書において、沼上氏は、小倉昌男という稀代の日本人企業家の軌跡を丁寧にたどり、その思考力、洞察力、学習能力について緻密な経営学的分析を施している。筆致も巧みであり、研究者のみならず実務家の理解を高めることにも努めている。まさに企業家研究フォーラムの趣旨にあった優れた研究であり、フォーラム賞に選ばれた。

論文の部

論文の部では、次の作品が受賞作となった。

神谷 宜泰 (名古屋市立大学 (院)) 著

「新参者による技術導入とその課題

―中小製造業における後継経営者主導の技術革新―」

(『企業家研究』第15号所収, 2018年7月)

選考理由: 本論文は、三河地域における金属加工の中小企業における技能継承についてインタビュー調査に基づいて分析した研究である。正統的周辺参加論をたたき台に17社の事例研究をもとに考察し、後継経営者主導で特にITが関わる技術導入がなされる場合には、古参者からの状況的学習が行われにくいということを実証的に明らかにした点が評価され、フォーラム賞に選ばれた。

特別賞

特別賞は、横浜国立大学名誉教授 吉森 賢 先生に贈ることを決定した。

選考理由: 吉森先生は、フランスの大学にて学位取得後、INSEAD、国際大学、横浜国立大学、放送大学などで教鞭をとりながら、グローバルに研究・教育活動に従事してこられた。ファミリービジネス研究者の先駆的存在であるとともに、長年にわたり企業家精神をめぐり研究に携わってこられた。『ドイツ同族大企業』、『日米欧の企業経営―企業統治と経営者―』、『企業家精神衰退の研究』など、海外での研究・教育経験に裏打ちされた、企業家や企業統治に関する国際比較的な著作も多く世に送り出しておられる。これらの長年の企業家研究への貢献を鑑み、特別賞をお贈りすることを審査委員全員一致で決定した。